

## 1 整備計画の概要

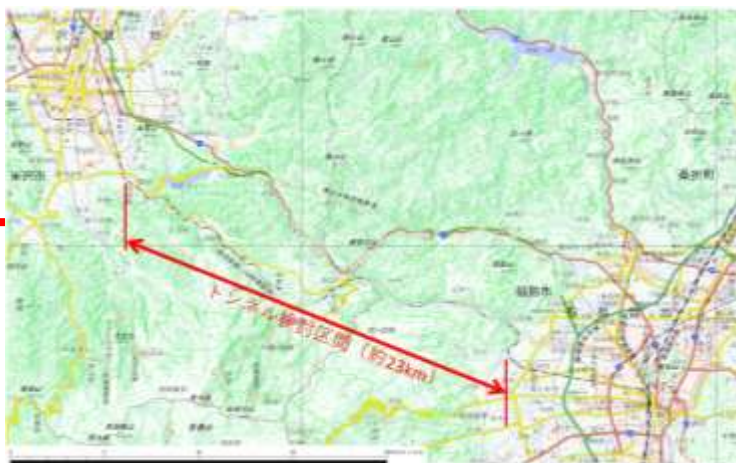
- (1) 事業区間：奥羽本線 庭坂駅（福島県）～米沢駅（山形県）間の約23kmの区間
  - (2) 工期：着工より約15年を想定
  - (3) 事業費：約1,500億円
- } ※調査等により今後精査
- (4) 整備効果：
    - ・ **より速く！** 10分強のスピードアップ  
時速200km以上の高速走行も可能な、緩やかなカーブのトンネルとなります。
    - ・ **より安全に！** 山形新幹線最大の難所の克服  
大雪などによる運行への影響を減らすことで、福島～米沢間の安全性・安定性が格段に向上します。

## 2 覚書締結までの経緯

- 山形新幹線の福島～米沢間は、山岳区間を走り、雨、雪、動物との衝突などによる運休・遅延が発生している。
- 2017(H29)年11月にJR東日本から山形県に対し、同区間の抜本的な防災対策となるトンネルのおおよそのルートや事業費などの調査結果が示され、2018(H30)年3月から山形県とJR東日本との実務者レベルでの検討を実施
- 2021(R3)年3月、JR東日本から時速200km以上での高速走行も可能な緩やかなカーブのトンネルを検討するため、より詳細な調査を山形県と共同で実施したい旨を提案
- これを受け、山形県でもトンネルの早期事業化に向けて、この提案を受け入れ、調査費用の一部を負担することとして、2021(R3)年9月補正で債務負担行為を設定し、2022(R4)年度当初予算に調査費（19,580千円）を計上するとともに、2022(R4)年9月補正においても債務負担行為を設定（2022(R4)～2024(R6)：限度額281,000千円）している。
- 現在、本整備計画の事業化に向けた共同調査を推進し、連携方策について山形県とJR東日本との間で引き続き協議を進めている。

## 3 覚書の概要

- (1) 目的
    - ・ この覚書は、本整備計画の早期実現に向けた基本的な事項を定める
  - (2) 計画実現に向けた合意
    - ・ 両者は本整備計画の早期実現に合意し、取組の推進に当たっては、緊密な連携のもと、情報の交換等に努める
  - (3) 実施内容
    - ・ 事業スキーム確定に向けた検討
    - ・ 事業化に資する調査及び検討
    - ・ 財政的支援を得るための政府への働きかけ
- 等



【計画範囲図】